

雨の日の幼稚園

自由遊びと手技

及 川 ふ み

四月、五月と晴れ渡つた大空の下で思ふ存分に、戸外で飛び遊んだ幼児たちも、そろ／＼雨の日の屋内遊びを餘儀なくされる頃となつて來た。

室内遊びの多いこの季節の保育は又特別な案のもごにのみ出される事であらう。保育室の比較的廣いところは別として、普通の幼稚園では屋内ばかりの保育になる。遊ぶ場所が大いに制限されて、ごく狭い所で大勢の幼児たちが遊ぶことになる。即ち幼児が幼稚園生活のうちで最も長い時間を過す自由遊びがその狭い場所で過さなくてはならない事になる。幼稚園でする保育項目のうちのこれを考へて見ても、短きものは數分ですむ事であるし、比較的時間の長いものでも三十分位がその限度の様に思はれる。かりに四

時間半の保育時間にしても、晝の食事及び保育項目その他の事で二時間を費すにしてもあの二時間半位は自由遊びの時となるのである。時間は長し、幼児の最も樂しむ時間でもあるこの自由遊びの指導が、屋内保育の出來不出来といふ事になるのではなからうかと思はれるのである。しかもこの自由遊びの指導が一番自然でやさしいやうで又一番むづかしいものでもある。

極めてむづかの幼児の數で、適當な屋内の廣さがあれば自由遊びの指導も比較的好都合に出来る事であつて、自由遊びと各保育項目とが渾然一體となりてこゝに理想的の所謂誘導保育が出來てくるわけであるが、三十人或は四十人なりの多數の幼児を一人の保姆の手で、自然に誘導して狭

い場所では遊ばせるさいふ事はなか／＼容易のことではないのである。

しかしながら實際の場合を考へて、狭い保育室も急には廣くはなる事もむづかしい事であり、保母の手もこれと同様に増加されず、しかも一組の幼児數も今以上減ぜられないさいふ事情のもにあれば今の場合としての最善の道をまつてゆかなければならない。

自由遊びはその名の通りに、全く幼児の自由に遊ぶのに任せておくべきであるが、幼児の自由で面白く、楽しくしかもこちらでも何の懸念するところもなく遊んでゐる時もあるが、時には遊び方が不充分であつたり、或は遊ぶ調子につて往々脱線してしまつてやむなくその遊びの方向を轉換させなければならぬ様なこともありがちなことである。

この點自由遊びは自由放任さいふ事は全く別の事であつて、いつも指導し、觀察してゐなければならぬのである。さいふ事は云ふまでもない。自由遊びの指導が容易の様で容易でないのも實際問題としておこつて來るのである。

自由遊びと誘導保育との連りが密であると同様に、誘導保育と手技とも亦その關係が密であつて、誘導保育の中心になるものは多くの場合に手技の様に思はれる。つまり手技を自由遊びの形にまで容易にする事が自由遊びを充實させる一つの方法でもある事である。

こんな意味から手技の材料をえらぶのに如何なるものをごさるべきかを考へて見る。

出来るだけ材料を簡單なもの

幼児だけで實際に出来るもの

出来上つたものが幼児たちの自由に使つて遊べるもの

製作材料が豊富に與へられるもの

なすが主なる條件であらう。

製作に簡單なものであれば一々保母の手を要さなくても自由遊びの中にも入つて容易に出来る事でもあり、又出来上つたものが幼児たちの自由遊びの材料ともなれば尙更實際的でもあるのであらう。

雨の一日日ながの保育にも自由遊びの形に手技がとり入れられたならば幼児もよろこんで、楽しく長い時間を過すこどもあるであらうし、これを指導する保母の心持ちもよりどころがあつて取るべき一つの道がつくのではあるまいか。

幼児と一緒に歌ふ唱歌も美しい聲で歌へる先生であればそれ以上のことはないのであるが、これをすべてのものに望むべきでないと同様に、手技なきにしてもすべての保母が器用人ばかりさいふわけにもゆかないのであるが幼児たちの喜ぶものは、器用に出来てゐなくてもよいもので、要は幼児たちを如何にしてよく遊ばせるかを工夫するところ

にあるのであらう。

こんな意味からして、屋内保育の多い雨の季節には特別

雨の日の観察あそび

清水光子

に自由遊びと手技との考究を一層深めて幼児たちの自由遊びの指導を充實させてゆきたいものである。

落付いて物をみるこゝろがこんなにいゝこゝろ面白いくゝろを知らせると言つては過ぎるが楽しんで物をみる習慣をつけたいと思ふ時、雨の日をこれ幸とする事もある、きのふも今日も雨で、内の中だけで遊ばなくてはならないで、あふれる勢力がはけ口をみつけてうづ／＼してゐる時、一方では身體的に一ぱいにそれをみたしてやり、又一方では閉ぢこもつた仕事にならない明るい観察あそびをさせる事が一つのはけ口にもならうか、今迄してみた事を二つ三つ、皆様の御批評をいただき度く書いてみる。

(一)あてつこあそび

子ぎもは腰掛けてゐる。先生が「今先生がこのお部屋のどこかにあるものを考へてゐます。何だがみんなであてゐるのですよ、みんなものだかを言ひますからよくきいていらつしやい」と前置きして例へば「少し細長く丸い形で上に穴があいてゐて、色は白いです、そして少し光つてゐます。

さわるこつめたいでせう。土でこしらへたものですつて、これはきれいなお花が大好きなのです」。「花瓶でせう」といふやうに當てさせる。色や、形、動き、材料などを注意して言ふやうにする。

(二)「商賣」こ

町でよくしてゐる遊びで、これもあてつこ遊びであるが。甲乙二組に分れてぎちらか先に、豫め相談してきめておいた商賣の様子のまねをみんなで他方の人達の前でするのである。例へばお百姓さんなら鎌を擔いで畑にゆき、たがやす様子種子をまく様子かり入れる様子をしてあてさせる。うまく當つたら大いそぎで自分の椅子にもぐる。もごらぬ前に相手側につかまつたらそちらの組に入るこゝろにする。この遊びは町でしてゐる時は甲「今日は乙「いらつしやいませ。お國は甲「日本乙「御商賣は「いふ應答の後にまねが始つてゐる。間接の観察であるが商賣について子ぎも